

地域の道路の諸問題について問いました

■事業の進捗を確認

①南生実町・大百池公園脇の道路の拡幅
「現況約3mの幅員を6mに拡幅する計画」「西側240mは現在実施中の詳細設計完了後、年度内に工事に着手する」「北側80mは拡幅用地の面積を確定するための測量を実施する」主旨の答弁がありました。

②森池橋(大森町)の相互通行の課題への対応

「カーブ内側のパネルを透明なタイプに交換する他、カーブミラーをワイドタイプに交換し、更に同仕様のミラーを1基増設する」主旨の答弁があり、先日工事が実施されました。

■右折レーン、矢印信号の設置を

③旧カインズホーム前の鶺の森町交差点 ④今井陸橋下の今井5号橋の交差点 ⑤今井陸橋下の南町交差点 ⑥末広5丁目の交差点

(⑤⑥は右折レーンが設置済みの為、矢印信号のみ要望。)

③～⑥について、「渋滞や事故の発生状況や要因、交通量や信号現示など、周辺環境を調査し適切な対策を検討していく」⑤⑥については「所轄警察署へ要望していく」主旨の答弁がありました。

※課題解決を目指し、引き続き粘り強く取り組んでまいります。



さかい通信 2023 夏号



◆改選後初の議会。新庁舎と共にスタート。◆

4月の統一地方選挙を終え、去る5月1日、初登庁を迎えました。一方、千葉市役所・新庁舎は、2月18日の竣工式を経て、6月1日には全面開庁致しました。5月17日、18日に行われた改選後初の議会・臨時議会、6月7日から22日まで開催された令和5年第二回定例会は、新しい議場での開催となりました。大切に利用させて頂くとともに、新しい施設にふさわしい活発な議論が行われるよう、市民の皆さまの負託に応えるべく、全力で働いてまいります。



■6月19日、改選後最初の一般質問に登壇

選挙期間中、様々なお声を頂きました。その一部ではありますが、「声を届ける」との思いで登壇致しました。(過去最多と思われる50名中36名が登壇しました。)2～4面に概要を掲載致しますが、QRコードから録画放映がご覧になれます。ご視聴ください。

市政の課題は多岐に渡ります。お気づきのこと、お困りのことがありましたら、お気軽にお声かけください。



※先の臨時議会及び定例会において、千葉市としての補正予算が成立しました。概要を以下にお知らせ致します。なお詳細につきましては、6～9月の市政だより等を参照ください。

声をかたちに

ココロボ

メンタルヘルスの無料オンライン相談「KOKOROBO」スタート

AIを活用しメンタルヘルスを支援する遠隔対応型オンラインシステム「KOKOROBO」は、国立精神・神経医療研究センターが開発し、2021年4月から運用を開始。ホームページにアクセスしてセルフチェックを行うと、AIが解析し、ストレスケアのアプリ紹介や医療機関の受診勧奨、無料オンライン相談など、一人一人の心の状態に合った支援を提供するものです。

無料オンライン相談については、医療機関との協力体制ができて自治体エリアの市民のみが利用でき、今般、千葉市は千葉大病院との連携で同エリアに加わりました。相談は臨床心理士らが対応します。

私自身、コロナ禍でメンタルヘルスの対策強化に取り組む中、オンラインで手軽に受けられるサービスを探す中でたどり着いたのがココロボでした。一昨年(令和3年9月)、議会で提案をした後、担当部門が丁寧に検討を進めて下さり今回の実施に至りました。

アクセス!

市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員 **酒井 伸二** | 〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14
Tel.090-2910-3925

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai_chiba@outlook.jp



「物価高騰対策」～補正予算が成立! 速報 詳細は6～9月の市政だよりを参照ください。

生活者向け

価格高騰重点支援給付金

住民税非課税世帯など1世帯につき3万円。
7月上旬から受付開始。

子育て世帯生活支援特別給付金*

低所得の子育て世帯に給付金を支給。
来年2月末までの出生児童1人あたり5万円。
*児童扶養手当受給世帯等、大方の対象者には5月末に給付済み。

子育て世帯臨時給付金支給事業

全ての高校生年代までの児童1人あたり1万円。
児童手当受給者:8月に振込予定
上記以外:8月以降に申請開始

消費活性化・生活支援キャンペーン

市民生活の支援、地域経済活性化のため
キャッシュレス決済によるポイント還元キャンペーンを実施。
PayPay、d払い、楽天ペイ、auPAY、AEON Payを予定
還元率10%(最大)、上限額5,000円相当
キャンペーン:10月頃に1カ月を予定

事業者向け

中小企業エネルギー価格等高騰対策支援金

物価高騰の影響を受けた事業者に
支援金を給付。
10万円/者、8～12月に
申請受付(随時給付)

公共交通、観光バス事業者、燃料費高騰対策支援

路線バス:10万円/台、観光バス:3.5万円/台
タクシー:2万円/台(法人)、1万円/台(個人)
※この他、高齢・障害事業所、保育施設、
畜産農家への給付金も決定。



令和5年 第2回 定例会における一般質問より

■以下のサイトにて、録画放映がご覧になれます。ぜひご覧ください!

www.chiba-city.stream.jfit.co.jp

議員名「酒井伸二」で検索ください!

酒井伸二

検索



保育環境の充実について

国においても「こども未来戦略方針」が決定し、児童手当や医療費助成の拡充、保育士の配置基準や処遇の改善などの進展が目見られますが、国の仕掛けだけではまかなえない部分について、現場の課題に即したサービスを提供できるよう、更なる充実を求めました。なお今回は、利用者及び施設、双方の視点から問いました。

利用者の視点からは、「**入所待ち児童の解消に向けた定員割れ施設の活用**」「**育児の孤立対策**」「**学童保育における長期休業期間中の昼食提供**」について質問。特に、本年度当初の認可保育施設の定員19,639

人に対し、定員割れ人数は2,224人。育休延長の届出目的以外の入所待ち児童が284人。入所待ちを選択している背景をしっかりと把握した上で、送迎保育ステーション設置の可能性なども探るべきであります。また、学童保育の昼食提供は受託事業者の自主的な取り組みが48ヶ所で行われていることから、更なる広がり求めました。

施設側の視点からは、「**保育士確保の支援強化**」「**(保育で特別な配慮を必要とする)要配慮児の受入支援**」について質問。要配慮児はR2年441人、R3年575人、R4年643人と増加傾向にあり、受入施設に対する更なる支援強化を訴えました。

こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革が今後益々重要です。そしてその第一歩は、子育て世帯の声をしっかりと聴いていく作業であると考えます。質問の最後に、様々な工夫を凝らして、子育て家庭のニーズの把握に取り組むよう求めました。



地域交通施策の充実について

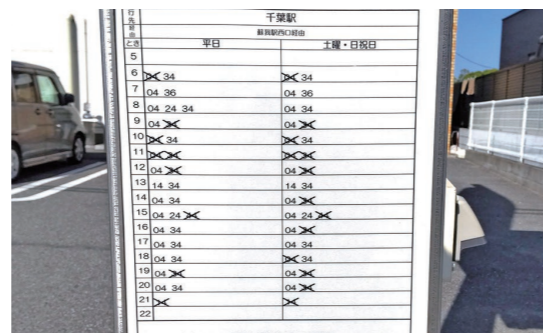
大都市における暮らしの中で、最も重要な公共インフラの一つが公共交通。千葉市は市営の地下鉄やバスを持たず、大都市にあって決して十分と言えない交通網は、ウィークポイントとも言えます。これまで幾度となく議会で取り上げ、近年は(13年前に提案した)デマンド交通の実証実験も始まっておりますが、この5月からは地元(蘇我、生浜)エリアでバスの減便も発生しており(写真)、対策の加速化を求め問いました。

■バス運行情報・オープンデータ化の加速を!

バス減便への対応やデマンド交通の他地域への展開などについて問いましたが…今回の質問で今更ながらはっきりしたのは、現行法制度上、市内路線バスにおける減便や休止について、市当局として正確かつ、つぶさに把握する術がないということです。市営バスを持たない本市として、少なくとも路線バスのルートや便数の増減など、その実態や変遷は把握しておきたいところであります。

そこで再認識したのが、バス運行情報のオープンデータ化の重要性です。これが進めば、運行経路や運行頻度等の把握が可能となるだけでなく、(真にどの地域にサポートが必要なのか)各地にデマンド交通等を進める上で必要な客観的なデータを備えることにもなります。もちろんそれ以外にも、グーグルマップによる経路検索を可能とすることや、MaaS(次世代モビリティサービス)の基礎データとなることは申し上げるまでもありません。

「**現在10社中3社のデータ作成が完了し、今年度からはデータ作成を進める助成制度を設けた**」との答弁に対し、**予算を設けて、(県との連携も含め)一手に取り組むべきと訴えました。**



蘇我副都心について

■JR蘇我駅・諸問題の解決を

第三の都心の表玄関である東口駅前広場はあまりにも手狭で、車輛による送迎を中心に利用しづらく、安全面においても課題があります。また、改札口の拡張やホームドア、(東西口への)エスカレーター設置、西口自由通路への屋根の整備を求める声も、予てより多数頂いてきました。

東口駅前広場は「周辺権利者を対象とした勉強会を開催するとともに、専門的なアドバイスや支援が可能な民間事業者の参画について検討していく。」**改札口**は「(本年の音楽フェス開催時に2基の臨時改札口を設置したが) 今後は今回の結果を踏まえ検討する」**北側への改札口やホームドア**は「引き続きJR東日本へ要望等働きかけていく」主旨の答弁。

西口自由通路は、これまでは東口の再開発事業の進展を待つとの方向性でありました。しかしながら、雨天とイベント開催が重なった場合には危険である他、元々東口とは異なる構造であること、既に60年を経過していること、音楽フェスを初め利用状況に大きな変化があることなどを踏まえ、副都心の「西側の玄関口」の問題として検討するよう訴えたところ、「(架け替えについては)再開発事業の進展や大規模イベント時の利用状況により、様々な視点から検討が必要になる」と一歩前進の答弁。

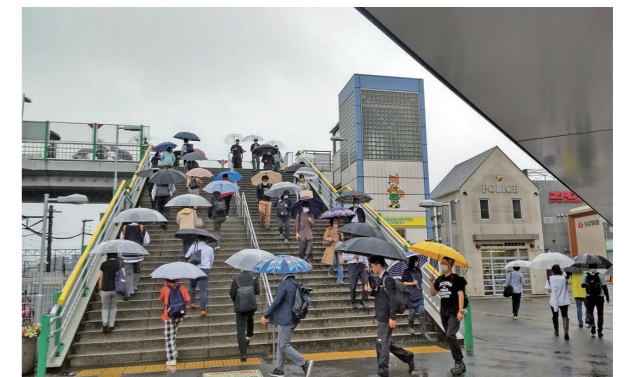
多くの来訪者へのおもてなしの入り口であり、時機を逸することなく取り組むよう求めました。

■音楽フェスの活用を

JAPAN JAMの初開催から7年。昨年からは国内トップの音楽フェス、ロック・イン・ジャパン・フェスティバルが開催され、この夏も開催されます。若い世代を中心に歓迎の声が多数ある他、昨年は「経済活性化やブランディングの上から重要」「文化振興、地域の誇りの醸成にも寄与している」との議会答弁もありました。

副都心の活性化については、2012年に「レッツエンジョイ・蘇我」を立ち上げ、ジェフ千葉のホームタウン事業等に取組んできましたが、音楽フェスを新たなコンテンツとして位置づけ、活用していくよう訴えたところ「今後、関係部局で検討していく」との答弁。

官民連携で新たな魅力と活力の形成につなげていくよう、取り組みを求めました。



北側への改札口やホームドアは「引き続きJR東日本へ要望等働きかけていく」主旨の答弁。



人と動物の共生する社会づくりについて

伴侶動物に対する社会の価値観は大きく変わり、自治体・動物行政のミッションも、保護や処分から命をつなぐことへと変化してきました。他方地域では、飼い主不明猫への無秩序な餌やりによる生活環境の悪化や多頭飼育問題、災害時のペット同行避難への対応等、人・社会の問題として、福祉や地域との連携が求められる現代的な課題に。そこで千葉市では現在、動物行政のあり方を策定すべく、有識者等による懇談会が行われています。最新の取組みと併せ、懇談会の今後について問いました。

危機管理上の問題等から見直しを求めてきた「**狂犬病予防定期集合注射**」の会場集約が進んだ(R3→R5:64→15会場)他、譲渡推進を目的とした猫の馴化部屋が整備され(9月)、ペットの同行避難「**訓練**」にも取り組む旨が示されました。また、今後の啓発・教育において動物公園や教育委員会との連携が検討されます。

懇談会は残り2回が予定されていますが、近年注目を集める「ワンヘルス(=人の健康、動物の健康、環境の保全は一体であるとする理念)」の視点を加味するなど、新しいセンターが今後10年20年と続くことを踏まえ、しっかりと議論を重ねるよう求めました。

※福岡県は2020年に全国初となるワンヘルス推進基本条例を成立させ、その実践拠点として「ワンヘルスセンター」の整備を予定している。

